

特集: 青年の島日系人協会・宮澤昂会長訪日報告

皆様のおかげで宮澤さんの日本滞在が無事終わりました。御礼申し上げます。

## 日本招聘への経緯～呼び掛けから

——今年クバポンは結成20周年を迎えます。この間、幾多の友好関係を築いてきました。ここ数年はキューバ青年の島への稲作支援活動を中心に活動してきました。現在、最終段階に入り、稲作専門家菊田会員による長期滞在指導を行っています。記念集会を開催するにあたり、現地プロジェクトの中心を担っている日本人会会長のミヤザワ・ノボルさんを招待したいと考えています。

2008年4月友好訪問(団長、君島代表委員)でキューバへの稲作支援の可能性を探り、農業省などを訪問した後、青年の島に渡り、日系人会を中心に稲作支援を含め文化交流などの話を行いました。ミヤザワ・ノボルさんは、その時に日系人会の会長として日系人会の人たちをまとめ、そして、稲作支援においてはクバポンと現地プロジェクトの間に入って中心的に活動してきました。また、昨年日本の外務省より外国において日系人として活動していることに対して表彰を受けました。残念なことには表彰状のみでした。

記念集会開催にあたり、クバポンの活動、とりわけ現在進めている青年の島の稲作支援活動の報告が期待されているところです。現地指導の菊田会員の他に日系人会代表ということでミヤザワ・ノボルさんにもお話をしてほしいと思っています。

ミヤザワ・ノボルさんは昨年、青年の島大学の教職を退職されました。皆様ご承知のように近年は医者、教員などは給料が少しアップしましたが、日本へ来る費用、滞在費は持ち合わせていません。そこで、皆様から来日費用のためのカンパをお願いする次第です。——



## 宮澤さんの日本滞在記 (記: 松矢文雄)

【9月30日】成田空港着。

昇さんの甥の息子ヨアンディ(札幌へ留学中)も昇さんの両親の故郷へ行きたいという希望があり、成田で待ち合わせ。川越市に向かう。寿司、赤飯等で歓迎。

【10月1日】祖先が眠る長野・飯島町へ。父親・松男さんの従兄弟の息子にあたる宮澤卓美さんに会い、生家や先祖の墓参。



先祖の墓参



宮澤卓美さん宅で

キューバ教育研究会の白石さんが同行し、4人で中央高速道を使って長野へ。クバポン代表委員の君島さん(と町議の滝沢さん)と指定された午後1時に役場に合流。

町役場職員の宮澤卓美さん(昇さんの従兄弟の息子さんで本家跡継ぎ)と初対面の挨拶。地方紙の新聞記者が取材に来ていた(翌日の新聞に掲載)。その後、卓美さんの実家を訪問。昇さんの父親松男さんがキューバへ移住した経緯やその後の生活



飯島町町長を表敬

など今まで知らなかったお話を聞くことができた。昇さんが持参した青年の島テレビ局が製作した日系人移民のドキュメント映画をみんなで視聴。生前の昇さんの母親かをるさんが出演していてインタビューに答えていた。自宅でのお話の後、裏山にある墓所へ。代々神官を務められていたので裏山全体が墓所になっていた。

宿泊旅館「陣屋」にて、卓美さん、昇・ヨアンディ、君島・滝沢、松矢・白石に元県議の小原さんが加わって歓迎夕食会。卓美さんが家系図を見せてくれた。平安末期(保元)に神職になり、室町末期(応仁)に宮澤姓を名乗ったとあった。会の途中で母かをるさんの飯田市の実家に連絡を取ってくれて、翌日訪問することになる。会の後に、「日本人の家」(仮称)の設計図を見せてもらう。資金を度外視して作成した



飯島町の、歓迎夕食会で

もので当初の予定より立派な建造物になっていた。メンテナンスの面や資金のことを考慮して、作成し直してもらうに君島さんと共に昇さん（日系人会）に伝えた。

【10月2日】飯島町散策。飯島町長表敬。その後、母親・かおるさんの生家を訪ねて飯田市へ。生家で親戚の吉川照雄さんに会い、吉川家の先祖の墓参



長野で栗拾いの一コマ。驚嘆！

10月2日、午前9時に飯島町長を表敬訪問。新聞社と地元テレビ局が取材（後日放映）。1時間ほど懇談して、小竹さんの案内で飯島町を見学。小原さん宅で栗拾い体験、昇さんはこんなに大きな栗は見たことがないと言っていた。その後、傘山へ移動し、展望広場から町全体を眺望。墓所の森や実家も見ることができた。



飯田市。母方の吉川さん宅で

午後飯田市の吉川宅（かをるさんの実家）へ。実家の吉川昭雄さんはかをるさんと面



飯田市：母方の吉川さん宅で墓参

識はなかったが、従姉妹の娘さん（昇さんの姉清子さんによく似た方で、かをるさんのことを御存知でした）と一緒に迎えてくれた。昔はお住まいの一体を所有していた地主さんで、その一角にある墓所でお参りし、昔のお話を伺った。帰路、リンゴ狩りを楽しむ。

【10月3日】飯田市散策。その後、埼玉・川越市へ

10月3日、9時前に旅館を出て、川越に戻る。途中甲府でぼんやりとではあったが富士山を見ることができた。12時川越到着。

【10月4日】CUBAPON 結成20周年の集いで講演。CUBAPON 及

び坂戸グループと懇親会。終了後、新潟へ

イベント会場のオルモへ。キューバ大使館のバルデスマランダ参事官、クバポンの代表委員の又市さん（2011年に青年の島を訪問し、昇さんとも面識がある）らと昼食。1部の「クバポン結成20周年記念集会」で「青年の島、特に日系人会を中心にした歴史と現状報告」を行う。時間が十分に取れなかったが、内容のある集会となった。

イベント終了後、クバポンとキューバフェスティバル実行委員会合同の昇さん来日歓迎会を近くのブラジル料理店「カッピンドゥラード」で行う（参加者は38名）。その後、菊田さんと新潟へ向かう。

【10月5日】新潟の集いで講演。——別記

【10月6日】新潟から東京へ。その後、坂戸市へ

【10月7日】箱根見学へ

箱根：埼玉・坂戸市の皆さんと



キューバフェスティバル実行委員の津嘉田夫妻、野口さん、松矢友人の安藤さん（2008年 Vamos a Cuba 参加）の総勢6名で箱根伊豆2泊旅行へ出発。

【10月8日】箱根、伊豆周遊

【10月9日】伊豆から東京。在日キューバ大使館表敬。

その後、坂戸へ

午後、在日キューバ大使館へ表敬訪問。ロドリゲス大使とバルデスマランダ参事官が出迎えてくれる。昇さんは久しぶりのスペイン語で会話が弾む。



駐日キューバ大使館・ロドリゲス大使を表敬

【10月10日】大阪へ。「キューバを知る会・大阪」出迎え ——別記

【10月11日】「キューバを知る会・大阪」講演会 ——別記

【10月12日】大阪から横浜へ移動。横浜在の従兄弟（中島さん）と会う。

横浜で昇さんの従姉妹の娘さんである吉越さんと十数年ぶりの再会。その後従姉妹の中島さんたちと市内見学等。

【10月13日】横浜から東京へ。都内見学

都内見学後、宿泊地の埼玉・坂戸市へ向かう。日本最後の夜をキューバフェスティバル実行委員有志の送別会。「日本人の家」の話で盛り上がる。資金援助もできたらしたいということであった。参加したキューバ教育研究会事務局長の越川さんが再来年、教育調査のため再度青年の島へ行く計画があるとのこと。稲作支援だけではなく、青年の島の日系人会とは今後も交流友好を継続できたらと思う。

【10月14日】成田から帰国

【後日談】

成田出国の時に「キューバを知る大阪の会」の村田さんから寄贈されたチェーンソーが持ち出し禁止とクレームが付いたとのこと、今回初めてと言うことでなんとか許可された。キューバでは問題なくすべての荷物が税関を通過した（時間はかかったが）とのことであった。青年の島に戻って声も出ないほどの風邪で数日間寝込んだらしい。緊張して過ごした長い滞在で疲れが出たのかもしれません。昇さんからは、クバポンや皆様のご支援によって、夢にまで見た両親の故郷を訪問できたことに深く感謝しているというメールが届きました。

クバポンとしては青年の島での稲作支援プロジェクトは来年が最終年になりますが、菊田さんを中心に引き続き支援活動が進み、米自給の目標が達成されることを願っています。また、日系人会との交流も「日本人の家」を足場に、今後青年の島を訪問する方々の中で幅広く進むことが期待されます。

## 各地の受け入れの模様

### 埼玉・坂戸

今回の宮澤さんの来日にあたっては、CUBAPON の松矢事務局長の地元、埼玉県坂戸市の方々に経費、労力など大きな支えをしていただきました。また「CUBAPON 結成 20 周年の集い」開催に協力頂くとともに、記念コンサートや宮澤さんの講演などの開催にも賛同協力していただきました。紙上をお借りし御礼申し上げます。

### 長野

長野での宮澤さんの両親の生家や先祖の墓参では CUBAPON の君島一宇代表委員が労を取ってくれました。宮澤さんの父親・松男さんの生家がある飯島町、母・かおるさんの生家がある飯田市などで親戚へ出会う為のアポや案内をしていただきました。

### 新潟

10 月 4 日、CUBAPON20 周年の集い終了後、青年の島での稲作支援プロジェクト現地技術指導員・菊田仁さんの案内で菊田さんの地元・新潟へ向かい、10 月 6 日まで滞在しました。

10 月 4 日：新潟着 10 月 5 日：9 月の新潟の訪問団員と再会。午後、「キューバ稲作支援報告会」で講演（参加 40 人）、その後懇親会。小千谷市の堀井さん宅へ 10 月 6 日：JA 小千谷見学して東京へ。

### 大阪

#### 宮澤昇さん大阪滞在記 記:村田博

宮澤さんは 10 月 10 日ー11 日、「キューバを知る会・大阪」の受け入れで大阪を訪問しました。以下、窓口になっていただいた村田さんの報告です。

10 月 10 日：大阪着。西成あいりん地区散策後、富田林へ。10 月 11 日：富田林で受け入れ先の中野さんの農園など見学。午後、大阪市内で講演会。終了後懇親会。10 月 12 日：横浜へ向け移動。

10 月 11 日、「キューバを知る会・大阪」主催の「宮澤昇さんをお迎えして」の会では、3 時間を越える長丁場でしたが、宮澤さんのお話は面白く、時間が経つのも忘れるほどでした。初めに、歓迎の歌「宮澤さんようこそ、キューバを知る会・大阪へ」と「グァンタナメラ」をピアノの伴奏で歌いました。そのあと、宮澤さんに青年の島 日本移民の歴史のお話をいただき、「休憩を挟んで、質問にお答えしていただきました。



大阪で講演会：宮澤さんを迎えて

#### 【お話しされたこと】

青年の島日本人移民協会(SCJJI)の概要

青年の島における日本人移民の歴史

目的～日本人移民とその子孫たちの歴史的な特徴の提示 ― 当初から現在まで。

- 1908 年、イスラロデコピノス(松の島)に上陸した初めての日本人、ミヤギ・マサル。
- 1933 年マツシマ日本人産業組合、ヨシザワヨタダシさん(1916 年メキシコから)
- 1986 年、マツシマへの移民停止、1998 年まで移民数一名。
  - ◇ 初めてのアメリカ合衆国による介入 ― マツシマの領地併合の意図
  - ◇ マツシマにおける日本人強制収容、1943 年 2 月から 1946 年 1 月
  - ◇ 350 名の 18 歳以上の日本人男性
  - ◇ 家族の状況
  - ◇ アメリカ合衆国により三度目の介入― マツシマの免税区域化と経済の完全な占有の意図
  - ◇ 商業における契約制度の導入
  - ◇ 残留を選んだ移民たちのキューバ市民権取得
  - ◇ 移民たちの土地買い上げと永住。キューバ革命後識字運動
- 経済の重要分野の国有化
- ブラジヤロヒロン侵攻、10 月危機、反革命勢力の反撃
- 革命攻勢
- 国家の樹立

◇ この一連の流れの中で青年の島日本人移民協会(SCJJI)の社会的目的が変わる。より若い世代において、文化を取り戻

し、保持し、発展させることが最重要の目的とされる。



CUBAPON 20 周年の集いで、チェンソーを宮澤さんに寄贈する村田博さん（左・大阪）。帰国の際は持ち出しが大変だったようだが、なんとかキューバにたどり着いた。

#### 【収支報告】

|       |           |          |
|-------|-----------|----------|
| 収入    | 602,200 円 | 個人、団体カンパ |
| 支出    | 633,340 円 |          |
| 招聘経費  | 328,715 円 | 国際航空運賃、他 |
| 通信費   | 16,524 円  |          |
| 移動交通費 | 163,581 円 |          |
| 食料費   | 18,620 円  |          |
| 宿泊費   | 102,200 円 |          |
| 入場見学費 | 3,700 円   |          |
| 収支    | △31,140 円 |          |

※赤字は CUBAPON 補填カンパで精算

※埼玉・坂戸、長野、新潟、大阪で地元の関係者の経費負担、及び便宜供与を受ける。

※滞在記録報の印刷経費、送料は CUBAPON 負担。

#### 招聘のための協賛カンパ協力者ご芳名

伊藤幸治、山岸和美、川路孝、鈴木孝雄、浜田真由美、宝田公治、針生富雄、水村伸平、松村源一、又市征治、小野塚芳郎、小野塚はつ子、吉田和子、井加田まり、溝川洋、小島康晴、小笠原福司、山城和成、村上久美子、村井幸子、芳賀優子、細谷久美子、君島一宇、鎌田篤則、田村京子、小柳正樹、村田優、吉田忠智、日高邦夫、米村麗子、野口巴義、松矢文男、堀口真紀子、村田博、宮崎勇雄、加藤玲子、川村訓史、田中昭子、西村、鈴木義博、鈴木美智子、白石、越川求、路野俊雄、上村、野口巴義、高齋、吉原富志子、波多野哲朗、吉村、今井智代子、亀山公亮、松矢文男、菊田仁、神山久、小林雅昭、佐藤淳子、佐藤公子、尾島博、津嘉田、熊田、府川幹夫、津嘉田、田村京子、野口巴義、松矢文男、前田恵介、20 周年記念の集い収益金、20 周年の集い参加者カンパ金、稲作プロジェクト事務局（順不同、敬称略）

※同一名複数回は回数を表す。

### TROPIC-TOUR アイエフシー

は CUBAPON の関連の手配旅行社です  
**キューバをあなたに届けます。**

◆アイエフシーは IFCC 国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通した友好・交流のプログラムを演出します。

◆アイエフシーは文化、政治、福祉、環境の分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝い致します。

◆アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第 3-3757 号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 333 番地 辻ビル 405

TEL03-3268-6014 AX03-3268-6079-

#### 【大阪での講演の質疑から～村田博 記】

質疑応答の冒頭で宮澤さんは自ら「フィデルリスト」（フィデル主義者）と言い、中立的立場での発言は出来ないと前置きしました。熱烈に革命を迎え、その後キューバ社会主義を支持し共産党员として自覚的に支えてきたことが伝わってきました。

宮澤さんは、革命の前後で何が変わったかとの質問に対して、“**11 歳の時革命が起こったことで、大学まで行くことができた。**革命が起こらなければ、私は小学校を卒業しただけの移民の農民として一生を送っただろう”と、基本的な読み書きから高等教育までが全国民に保障されたことを自らの経験として語りました。ごく短期間に差別が根絶され、人種や肌の色、出身地などに関係なく、互いに人間であることによって尊重される社会が生まれたことが革命の大きな成果でした。

しかし**革命の恩恵だけでなく、負の側面**たとえば「悪平等」が克服すべき重要な課題となっているということも強調されました。現在進む経済改革の軸は生産性を上げることであり、「能力に応じて働き、働きに応じて受け取る」という原則を徹底させるため、成果主義賃金が導入されています。社会全体でみれば、教育や医療、観光施設など重要な部門を除いては国家経営から個人経営へと移行させようとしています。第 6 回大会の決定から 4 年たって、世界的に経済危機の影響もあり、経済改革のさまざまな課題に直面しているようでした。

特に印象深かったのは、**ソ連崩壊後の「特別期間」の厳しさ**でした。これは想像以上でした。国家にとっても諸個人にとっても生きるか死ぬかの瀬戸際まで行ったということがわかりました。無秩序のもとで個人が好き勝手なことをやったとも表現されていました。国家として医療・教育の保障を死守して生き延びたことの意義を改めて感じるとともに、“特別期間はまだ続いており、25 年間無秩序しか知らない世代が生まれている”という言葉の中に、未来を担う若い世代の様々な困難を示していました。

会場から、キューバが人間的なものを大切にしていること、ゲバラが唱えた「新しい人間」を支持する発言がありました。宮澤さんは教育・医療など人間的なものを維持するにも生産性を高めることが大事だと**改めて土台としての経済の重要性を強調**しました。どっちを捨ててどっちを取るということではありません。経済を上げるだけなら簡単だが、人間的なものを残しながらやっいていこうとしているから大変だ、と。

意外だったのは、「**キューバの参加型民主主義**」についての回答でした。宮澤さんは国会で法律が決まったとしても、党の中で下から上まで徹底した議論がなされ、そこで承認されなければ法律にはならないと、最終決定を行う党の権威とそこでの民主的討論の重要性を言っていたように聞こえました。そしてこの「参加型民主主義」は、絶対に間違いがないとはいえないが、間違いが最も少ない選択をしていると言っていました。実際、共産党と党员がキューバ社会主義をリードするのはわかるとしても、政策決定のシステムが「国家の上に党がある」というようなものになっているのか、どのようになっているのか、「参加型民主主義」の現実のあり方としてさらに詳しく知りたいと思いました。

その他、**フィデルとラウルの違い**について、フィデルの時は反対と書いていても反対と言えない雰囲気があったが、ラウルは、反対なら反対と言ってほしいと言い、より多様な意見を大切にしていることや、表現の自由について、政府に批判的な意見を言うのと、反体制の主張をするのとは違う、米国の介入によって反体制があおられてる、後者は認められないとの考えなど、興味深い話がありました。

※太文字は編者が手を入れました。

CUBAPON の活動にご協力いただきありがとうございます。2014 年度会費（2014・6・1～2015・5・31）会費：3000 円にご協力をお願いします。  
振込は郵便振込口座 00170-2-19591、口座名：日本キューバ連帯委員会まで。